

Title	医療用医薬品の製品開発 - 領域間の比較分析 -
Sub Title	
Author	柴崎俊雄 古川公成
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1988
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1988年度経営学 第609号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001988-0609">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001988-0609</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 柴 崎 俊 雄  
(エーザイ株式会社)

主査 古 川 公 成  
副査 片 岡 一 郎

所属ゼミナール 古 川 公 成 研

小 野 桂 之 介

## 医療用医薬品の製品開発 — 領域間の比較分析 —

わが国の医薬品産業は、1970年以降抗生物質の生産額の伸びによって急成長した。しかし、1980年以降の医療費抑制策の強化による大幅な薬価の切上げや、新薬の承認規制の厳格化に伴う研究開発費の負担増大など、医薬品業界を取り巻く環境はますます厳しさを増してきている。

国内の医薬品企業にとって、国内外からの競争下で、成長維持を図るために、販売面では、国内市場での営業基盤の確立と海外への販売部門の進出が課題である。また、長期的には、世界に販売できる大型の新薬開発が不可欠である。全産業の中でも、研究開発比率が高く、新製品開発に熱心な産業であるが、国内で販売される医療用医薬品の新成分数にしめる国内開発品の数は少ない。

医療用医薬品のなかで、市場性の大きな薬効分野である、抗生物質製剤と循環器官用剤をとりあげ、その製品開発の相違点を明らかにする目的で分析した。

その結果、抗生物質領域では、わが国で開発された製品のしめる比率が高く、また限られた企業が、何品も承認販売しているのに対して、循環器官用剤では上位の企業でも4品程度と少いことが明かとなった。循環器官用剤の開発成功の難しいことが判明した。

また医薬品の開発に先立って、当該分野の販売基盤が確立されていないと、大型製品に育成することが難しい点も推測された。製品開発の情報提供としての販売部門の活用が課題であることも予想された。